

## 式 辞

本日、東京農工大学大学院連合農学研究科に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。連合農学研究科への新たな入学者は五一名です。本日は、連合大学院を構成する大学より、茨城大学長 池田 幸雄先生、宇都宮大学長 進村 武男先生、また、各構成大学の理事・副学長、農学研究科長のご臨席を頂いております。我々一同、皆様を心より歓迎いたします。また、これまで側面から皆さんを支え、この日を待ちわびてこられたご家族の皆様をはじめとした関係各位のお喜びもひとしおと思います。心よりお祝い申し上げます。

さて、皆さんは本日より博士後期課程の一員として活動を始めるわけですが、皆さんはそれぞれの分野で一流の研究者になるという大きな目標を持ち、意欲に燃えていることと思います。これからの勉学と生活にいかなる心構えで臨むかは、皆さんの将来を決定づけるほどに重要ですから、皆さん全員に有意義な大学生活を送っていただきたいと思います。

皆さんが所属する本連合農学研究科は日本及びアジアでの中核的な博士課程大学院として発展してまいりました。これまでも広い視野と高度な専門知識を持ち、総合的判断力を備え、国際社会に貢献できる高度専門職業人や研究者を多数養成してきており、国内外からも高い評価をいただいております。皆さんの期待に十二分に応えられる体制を整備しており、皆さんのチャレンジの場としてふさわしい研究科と自負しております。存分に研究に没頭していただきたいと思います。本研究科の最大の特徴は、三つの大学の教員から構成されているところにあります。三大学をあわせることにより、多数の教員により、広い分野をカバーできる研究科となっております。しかも三つの大学間では、大学の枠を越えた協力関係ができております。これは他に無い本研究科の優れたところです。皆さんは皆さんの研究テーマに最もふさわしい指導教員のもとで研究を進めるわけですが、最近の研究は融合化が進み、広い専門分野の知識を要求されるものが増えてきております。そのような状況でも、本研究科は層が厚くかつ幅広い研究者集団から構成されておりますので、主指導教員以外でも皆さんに適切な指導・助言できる体制が出来ております。教員は喜んで皆さんの相談にのってくれるでしょう。これが本研究科の特色でもあります。皆さんがこの特色ある本研究科が持つ特徴を大いに活用し、深い専門性と幅の広い専門性の両方を兼ね備えた世界に通用する研究者へと成長されんことを願っております

新入生の皆さん、皆さんはいま科学者として瑞々しい好奇心に満ちていることと思います。それぞれ自らの研究テーマに夢を持っているはずですが、「学問に王道なし」といいます。着実な努力こそ成功の秘訣であること忘れないで下さい。研究の過程で意外なこと、予想外のことに必ず出会うでしょう。それこそ皆さんが取り組むべき研究の芽なのです。それを見過ごさずに着目し、持てる知識を総動員し、あらゆる角度から考察を加えてください。この積み重ねにより、小さな芽が大きな幹に育って行くのです。研究室内の同僚との議論は勿論ですが、学会や研究会をとらえ、異なった視点を持つ他の大学の、あるいは国際会議で出会う海外の研究者と常に積極的に議論を行なう姿勢を持つようにして下さい。多様な考えを持つ人との議論が思わぬ着眼に結びつき、新しい研究の展開にも繋がり、皆さんの研究は大きな幹へと成長するでしょう。多角度からの批判にも耐えられるゆるぎない芯の通った研究となり、最後にその大きく育った幹に大輪の科学の花が咲くはずです。

これこそ、皆さん自身が創造した新たな「知」であり、研究者としての最大の喜びを味わえる瞬間です。多くの喜びを体験し、世界に通用する研究者へと成長していただきたいと思いをします。

既にご案内のように、学問領域は細分化が進み、近隣の学問領域相互の距離も逆に拡大しつつあります。社団法人として登録されている学会だけでも九〇〇を超えておりますし、法人化されていない学会を考えれば、その何倍にもなるでしょう。細分化は学問の進化の結果として一つの宿命ともいえるものです。一方では、多くの要因が複雑に絡み合い、総合的な判断力が求められる課題も多くなってきております。広い視野が求められるわけです。このような状況下で、隣の分野の動向も把握できずに、自らの研究の方向性を的確に決められるでしょうか。広い視野をもってはじめて正しい方向性を見定めることが出来ると思いをします。自分の専門と他の分野とがどのように関連しているのか、科学技術全体の流れの中での互いの位置づけを把握できる多元的な視野を持つ研究者・技術者を目指していただきたいと思いをします。そのような訓練の場としても本連合農学研究科は多様な研究者を多数擁しておりますので、皆さんにとっては最適な学びの場といつてよいでしょう。

新入生の中にはアジア、アフリカ、南アメリカ、ヨーロッパからの留学生一六名が含まれております。大変国際色豊かな研究科です。留学生の皆さん、言葉も習慣も異なる日本における生活は、何かと苦労も多いかと思いをしますが、一日も早く日本での生活に慣れ、研究に専念していただきたいと思いをします。併せて、日本文化についても造詣を深め、皆さんの母国と日本とをより一層強い絆で結ぶ架け橋となつていただきたいと思いをします。

今はグローバル化の時代といわれますが、グローバル化は世界が均一になることを意味しません。むしろお互いの多様性を認め合い、それを尊重することがベースになります。異なった国や民族の風俗習慣、宗教、歴史、政治、経済などを十分に理解し尊重した上で、自らもしっかりとした意見を持っているいろいろな問題をフランクに議論できる能力を持つことこそ、グローバル化の時代における国際人に必要な資質です。国際色豊かな本研究科での学園生活を通して、グローバル化の時代にふさわしい国際人としての資質を大いに磨いていただきたいと思いをします。「真の国際人たれ」と希望したいと思いをします。

以上、これからの皆様の本学における学園生活が実り多いものになることを願い、本研究科で学ぶにあたっての私の期待について述べました。今日の希望に満ちた気持ちを忘れず、何事にも自発性と行動力を持ってあたる積極的な学園生活を送つて下さい。皆さんが明日の科学を担い、世界で活躍できる研究者として大きく成長されんことを期待いたしまして、式辞と致します。

平成二十二年四月九日

東京農工大学長

小畑 秀文